

Page 1 無関心だった人間が日本を愛する心で行動して、大変な目に遭ってしまったお話

と題して。前回の憲法を起草する会で、荒谷先生から国家の強制力と国民の管理のお話を伺い、先生の警告と私と仲間が経験していることが一致している部分が多く大変驚きました。そして、自分の一種の失敗経験を皆様への教訓としてお話させていただきたいと思います。

これは司法の世界で起きていることですが、司法をパンデミックに置き換えれば、「誰にとっても身近に迫る危機が今そこにある」ことをお伝えしたいと思います。

荒谷先生のお話は決して杞憂ではないと考えています。先生の鳴らす警鐘を私たちは本気で受け止めなければならないだろうと思っています。

それでは、私は気が付いたら日本を愛する人間になっていた過程からお話を始めます。

Page 2 家族的な会社が グローバル化で マネー中心に変わった

バブル崩壊後も成長するベンチャー企業に勤務していました。社員を何よりも大切にする、今思えば天国のような、家族的という意味では「むすびの里」のような会社でした。

会社が上場を目指し、調達や市場展開でグローバル化の流れに乗り、マネー中心にすべてが回るようになり、人の心も変わり、自分の中に違和感が生じ、このままでは大切なことがわからなくなると直感しました。

1998 年に退職しましたが、直前まで担当していた香港が、ここ数年での中国の圧力によりすっかり様変わりして、かつては賑やかで華やかでエネルギーに溢れ、すべてに楽観的だった香港が、今では消えた夢になってしまいました。これは私の中でグローバル化を空しく感じる大きな要因です。

Page 3 2002 年の小泉訪朝と拉致問題で衝撃を受けました

日本人の安全と幸せについて考えるようになりました。意見広告に賛同し、募金をし、横田滋さんにお手紙を出して、お返事を頂いたこともありました。何か自分にできることはないか考えて、日本が断固たる態度で、強制力を持って他国に連れ去られた同胞を無条件で助ける国になるにはどうしたらよいか、答えを求めるようになりました。

Page 4 その後ブログを書き始め、価値観が同じ人と知り合うようになりました。

森の写真家、日本画家、林学研究者。それぞれが日本の伝統を大事にして実践している方々でした。特にシンクタンクの研究者とは持続可能な世界、日本の大部分を占める中山間地域の活性化についてお話を伺って、メールベースで未来についての思考実験を共に行いました。環境、エネルギー、町おこしなどを中心にした社会実験も行われました。そこで出た結論は共同体と伝統の維持が大事ということで「むすびの里」と同じでした。

Page 5 2008 年長野での争乱

長野オリンピック聖火リレーでの中国人留学生によるフリーチベットを妨害する騒乱を見て、大きな危機感を持ちました。外交防衛で日本のために働く政治家を育てなければ！と勢いで国会議員事務所のボランティアを始めました。実績作りで研究者を紹介し予算委員会の質問セッティングを初め、あらゆる雑用を引き受けました。街頭でのビラ配りも経験しました。

政権交代選挙で議員は落選しましたが復帰をめざしてボランティアを続けました。すぐに、日本のために働けるように、自衛隊 OB の方と共に安全保障勉強会を立ち上げ、OB を招聘した勉強会や演習の見学なども行いました。

その後政治の世界で支援することに限界を感じ、趣味に没頭しました。落選中を支えた議員は先日まで政府高官でしたので、ボランティアとしては意味があったと考えるようにしています。

Page 6 環境醸成と情報交換のためお話しします。

前回の勉強会の内容と符合するところがあり、お話しします。これは荒谷先生が話された「環境醸成と情報交換」が目的です。先生のお話は杞憂ではなく、今既に始まっている危機であるとお伝えたいです。

私は、憲法を起草する会が提起するような課題が最重要課題と思っています。

私と私の仲間には、そう思う独自の理由があります。

拉致被害者救出と日本の浄化を志した活動の一環として、弁護士会による朝鮮学校への補助金支給要求の、度重なる会長声明発出に対する抗議の趣旨で、あるブログで呼びかけが行なわれて、賛同した約1千名が弁護士会の会員弁護士に対して懲戒請求しました。

しかし懲戒請求された一部の弁護士から1千名の懲戒請求者が個別に提訴されました。

そして司法の場で差別と受け取られて、法廷での応戦を余儀なくされ3年が経過しています。

Page 7 国家の持つ強制力を管理社会の形成に使用すること。香港化、ウイグル化、は身体の直接的な暴力を除いて、限られた場所で限られた人間を対象に、すでに発生しています。

公式には何度も否決された人権侵害救済法案ですが、理念法であるヘイト法の成立を受けて、罰則規定を求める声が出ています。それを先取りする形で、司法が事実上の人権救済機関として民事訴訟を利用して罰則を与える図式が可能になってきています。日本では許されていない懲罰的訴訟に等しい、賠償金総額 10 億を超える訴訟が行われ、すべて認容判決が出ています。司法の場では差別という言葉が出ると、自動的に日本人が悪いという思考停止が発動して、訴えられたら必ず負けるシステムが出来上がっています。

これは、差別冤罪がすでに起き始めているということになります。

・日本を想う心だけで行動すると、差別的と捉えられることで社会的に抹殺される事態が生じます。

Page 8 弁護士会とはどのような集団か

強制加入の弁護士会が左翼活動に邁進し、北朝鮮の利益を代弁している現状があります。政府見解では破防法の調査対象団体である、特定の政党と同じ主張の会長声明が多数出されています。弁護士会の使命は少数者の人権を擁護することと公言しています。その定義によれば少数者に日本人は含まれません。理由は日本人が多数者だからです。真に救済されるべき少数者は拉致被害者であると私は考えていますが、弁護士会の少数者の定義に、日本人は入らないため、最優先で人権を救済されるべき対象に拉致被害者は入っていません。

弁護士会の信念により、朝鮮学校への補助金支給要求声明に反対したことが「人種差別」に擦り替えられました。

Page 9 多数の裁判で現状の法律のおかしさと運用のひどさを経験しています。

法律と判決は国家の強制力を利用した管理であり、法的知識があれば合法的に非道な追込みが可能です。懲戒請求は扇動による人種差別と擦り替えられました。差別主義者に人権はないというプロパガンダが成功し、法的には問題がなくても、ひどい人権侵害が起きています。あまりのひどい現実、鬱病を発症した人々、離職を余儀なくされた人が出ています。失意のうちに亡くなった人も 10 名以上です。人権擁護を掲げる弁護士が、喜々として 1000 人を続々と破滅させている現状に、ただ恐ろしさを感じています。

裁判を正当化するネガティブキャンペーンが盛大に行われました。懲戒請求をする人間は何をされても自業自得、弁護士は善で、懲戒請求者は大馬鹿で悪者、という世論を予め喚起されました。NHK、日テレ、TBS、テレビ朝日、毎日新聞、朝日新聞
教育、司法、メディア、広告代理店が一体になって固定した見方を刷り込んでいく図式があります。ここで、戦後 7 年間に敷かれた日本支配の構図が、今も存在していて、日本人の生活破壊にも使われる経験をしています。

素人に対して、誰の目も届かない司法の世界で、法律のプロが事前に根回しをして結論ありきで提訴されたら、その時点で負けが確定します。確定した判決認容額の回収に非常に強引な方法がとられています。現状では抑止が不可能です。

慰安婦訴訟における植村隆氏の代理人弁護士『神原元弁護士(神奈川県弁護士会)』
外国人参政権を推進する弁護士組織を設立した弁護士『金竜介、金哲敏弁護士(東京弁護士会)』
あいちトリエンナーレ関連の津田大介氏代理人『小倉秀夫弁護士(東京弁護士会)』
ブラック企業の被害訴訟を仕掛ける弁護士『佐々木亮(東京弁護士会)』、『嶋崎量(ちから)弁護士(神奈川県弁護士会)』
入管法改正阻止に動く弁護士『児玉晃一弁護士(東京弁護士会)』 不法滞在クルド人の代理人(立憲共産党とのコラボ)

コピペした同じ訴状で判決はバラバラ。法の下での平等が破られる。憲法 14 条違反
裁判所と弁護士会とは親密な関係にあるため、原告弁護士の立場に立った判決が量産され、憲法第 32 条に違反する訴訟進行。
法曹界の仲間意識が強すぎて、教育段階で思想傾向が同じことから、日本の常識とかけ離れた判

決が大量生産されるメカニズムが存在します。

訴えられたら最後、言いなりにお金を支払うしかない。民事執行法が変わって、ヤクザ顔負けの回収が行われている。

10 万円、20 万円という債務に対し、突然居住中の不動産を強制競売にかける。狙いは生活基盤の破壊。係争中の仮執行宣言が付いた状態で、確定していない判決に対しても強引な執行を裁判所が承認している。請求額は 11 人から 10 億円以上。1 人 3 億円が 3 名です。

Page 14 差別・ヘイトはターゲットの刻印＝人権侵害してよい

レッテルが貼られた時点で、どんな「法的な管理」をしても良い存在になる。声を上げられないようにしてやりたい放題です。今は司法の限られた世界のことと他人事にできますが、将来的には広く展開可能な手法が試されています。これは、日本の収容所列島化の第一歩であり、ウイグルや香港で行われていることの縮小テストケースと言えます。

Page 15 潰されるのを待つだけの絶望の日々、荒谷先生を知り、熊野に飛んで行きました

3 日 3 晩、動画を見続けました。3 日後には仲間になり、3 週間後には熊野を訪ねました。

先生には勉強会でお話されるような、日本の国の在り方や、慣習法の存在や、考え方を教えて頂きました。

合意から生まれる慣習法、共同体の復活、伝統の維持、天皇陛下の存在、本当に大事だと痛感しました。

Page 16 憲法を起草する会で提起される問題は、私にとって生死に関わる切実なテーマ

日本人が幸せに暮らせる法律が必要。

法に触れなければ何をしても構わないという現状が異常。

司法の場での防戦は、仲間と力をあわせて続けていくが、我々の一つの失敗を、今は平和に生活できている日本人、これから生まれてくる日本人のための教訓としていただけたらと願っています。

先生のお話は杞憂ではなく特定の日本人を用いてマイルドな弾圧は現実となっています。

大変な状況の中で、「むすびの里」と「憲法を起草する会」に触れることが我々にとって現実の救いとなっています。

Page 17 私達仲間の強み パワーエリートの正反対がすでにできている

私達はすでに仲間がいて、情報を共有して孤立を回避し、気遣いあってお互いを守ろうと自然に振る舞うことができています。すでにパワーエリートの正反対を行く体制ができています。荒谷先生ご説明の 相互信頼、親和、集団化、情報共有、抵抗 これからの課題はどのように社会化をして行くかということに絞られてきます。

今後の課題は、我々の従来の活動の外に如何にして「むすびの里」的な在り方「憲法を起草する会」で語られるような現実のルールを立て方を自然な流れとして生み出していくことと感じています。

自分の身の回りに自己完結して暮らせる世界を構築することは、汗を流して皆が助け合う幸せな樂園を作ることであり、その活動が集積すれば社会変革は必ず起きると確信しています。